

まちの印象を変える塀

敷地の境界などに設けられる塀。その材料には、木や土、石やレンガなどが使用され、デザインも千差万別です。塀には境界を区切るだけでなく、さまざまな役割があります。

城下町だった川越の武家屋敷では、カラタチの生垣を使用していました。カラタチには鋭い棘があり、侵入者を防ぐ役割があります。まちなかでは、境界に沿って土蔵などを建て、その間を埋めるように塀が設けられました。レンガや石などが使われた塀は、防火の役割も担いました。また、住居の周囲では、大和張りという板を交互に重ね合わせ風通しを良くした塀が見られます。

現在の整備された住宅地では、透視性の高いさまざまなフェンスも使われています。塀一つで町の表情は変わります。街歩きをしながら、歴史や暮らし方が感じられる塀を見つけてみませんか。



カラタチの生垣(永島家住宅・三久保町)



蔵の間のレンガ塀 大和張りの板塀(民家)
(蔵造り資料館・幸町)



古くからヨロツパで栽培されていたバラ。その原種はアジアに多く見られ、日本もバラの原産地の一つです。「万葉集」にも「茨」と記載されている



国内でいち早く栽培を始めたというカンパネラスター(開花前)

ほか、「源氏物語」にもバラが登場します。現在は観賞用だけでなく、アロマオイルや食用にも使われています。

市内のバラ生産農家の内田紀雄さん(大

バラ

中居)は、1,000坪ほどのハウスで栽培し、市場に出荷するほか直売も行っています。「名前や特徴から興味を持ってもらえるとうれしいですね」と話す内田さんは「カンパネラスター」という、開花するとカーネーションのように丸みを帯びた咲き方が特徴の珍しい品種も栽培しています(左写真)。

春はバラが特に元気な季節。観賞用の場合、涼しい場所に置き、水の交換に気を使えば2~3週間は花を楽しめるそうです。この春、贈り物や自宅用に川越産のバラはいかがですか。



人気のドルチェヴィータは、イタリア語で「甘い生活」という意味



散歩中に見つけた霜柱

まだまだ寒い日も続いています。先日、近所を散歩していると、木陰に霜柱を見つけました。上を歩いてみるとザックと耳に心地よい音がして、どこか懐かしい感じがしました。

暖

かい日もある一方で、まだまだ寒い日も続いています。先日、近所を散歩していると、木陰に霜柱を見つけました。上を歩いてみるとザックと耳に心地よい音がして、どこか懐かしい感じがしました。



春の息吹を感じる梅の花

「弥(いや)いよ、生(おい)い生(い)い」ので、「いやおい(弥生)月」だとする説があるそうです。冬の間、じつと芽を出すための準備をし、やっと外に顔を出した草木の成長が楽しい季節です。

春

の訪れをすぐそこまで感じる3月。「弥生」と書くこの言葉の語源には、この頃になると、萌え出した草や木が「弥(いや)

編集後記

どんぐり